

# 講義で使用する大学図書館のeBook

野村 卓志<sup>1)</sup>, 林 左和子<sup>1)</sup>, 岡田 建志<sup>1)</sup>, 井出 直樹<sup>2)</sup>

1) 静岡文化芸術大学 文化政策学部

2) 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター

nomura@suac.ac.jp

## College Library eBook for Use in Lectures

Takashi Nomura <sup>1)</sup>, Sawako Hayashi <sup>1)</sup>, Takeshi Okada <sup>1)</sup>, Naoki Ide <sup>2)</sup>

1) Faculty of Cultural Policy and Management, Shizuoka University of Art and Culture

2) Library and Information Center, Shizuoka University of Art and Culture

### 概要

図書館向けのeBookサービスを大学の講義で利用した時の特徴や問題点を明らかにすることを目的として、eBookを複数の講義で学生に利用させた上でアンケート調査を行った。講義で使用する場合にeBookサービスや大学の機器に求められる特徴、利用上の特徴について論じた。

### 1 はじめに

近年、eBook(電子書籍)サービスは広く普及してきた。2016年度の市場規模は1976億円であり、出版市場の10%以上を占めるようになった[1]。これら個人向けの販売を前提としたサービスとは異なり、図書館向けのeBookサービスは貸出を主な機能としており、そのシステムの性質や業者は個人向けのサービスとは異なるものである[2]。本研究では、図書館向けeBookサービスを大学の講義内で使用し、特徴や問題点を明らかにするためにアンケート調査を行った。その結果を報告する。

### 2 eBookと教室環境

本学図書館におけるeBookサービスは、エブスコ・インフォメーション・サービス・ジャパン社が提供するEBSCOhost[3]である。このサービスでは、提供されている書籍から選択して、紙の書籍と同じように一冊ずつ購入する。購入した書籍は大学内のLANを経由すればWebブラウザを用いてEBSCOhostのサイトを開いて読むことが可能であり、この時にユーザ個別の認証は必要とされない。同時アクセス数は購入時に1あるいは3に設定し、この同時アクセス数によって価格が異なる。個別に契約すればさらにアクセス数を増やすことも可能だが、今回使用した書籍ではアクセス数を増やす契約にはしておらず、同時アクセス数は3としている。また、EBSCOhostでは開始ページと終了ページを指定して、ページのPDFファイルを生成してメールの添付ファイルとして送信する機能がある。

本研究の講義を行った文化政策学部は人文・社会学系の学部であり、多くの講義は学生が机に向かって板書やプレゼンテーションを見て学ぶ、いわゆる座

学形式である。また、情報リテラシー系の講義では、学生1名に1台のPCが用意されている、いわゆるPC教室を利用している。ここで使用しているPCはオフィス等の利用を前提として準備されており、eBookの閲覧に関しては考慮されていない。

### 3 講義のeBook利用とアンケート結果

まず、PC教室を利用した「図書館情報技術論」の講義内で、eBookの特徴の解説を行なったのちに、EBSCOhostの使用方法を説明して指定した本の閲覧を行わせた。受講人数とアンケート回答数は30名であるが、この講義内で閲覧を行った時がEBSCOhostの正規利用開始前で同時アクセス数の制限が課されていなかったため、受講生全員に同一の書籍の閲覧を行わせることができた。また、PDFファイルの送信機能を使って、学生の所有するスマートフォン等による閲覧も行わせた。これらの閲覧ののちに、トラブルの有無、使用した感想の自由記述、紙の書籍とeBookのどちらが便利と思うかのアンケートを行なった。

その結果、特にトラブルを報告した学生はいなかった。どちらが便利かの問いには、図1に示すように60%の学生がeBook、40%の学生が紙の書籍と回答した。eBookに対して肯定的な感想としては、持ち運びに便利、入手が容易、本文を検索できるのが便利、文字サイズや用紙サイズを変更できるのが見やすい、という点を挙げていた。否定的な感想としては、紙書籍の方が慣れているという意見に加えて、ページを繰る速度が遅い、文字がぼやけて見にくい、書籍の種類が少ない、との指摘があった。速度に関してはPCそのものの処理能力に加えて、30名程度が同時アクセスしていることから回線速度の問題もあるものと考えられる。また、使用したPCは画面の解像度が 100 ppi (pixel

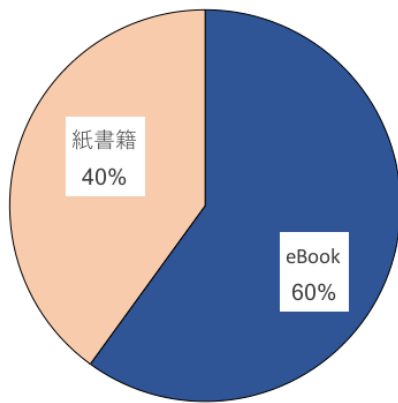


図1) 紙書籍とeBookのどちらが便利か  
「図書館情報技術論」のアンケート結果

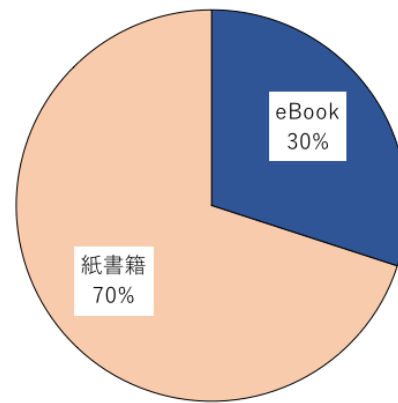


図2) 紙書籍とeBookのどちらが便利か  
「国際文化入門D」および「東南アジアの歴史」  
のアンケート結果

per inch) 程度の一般的なものであり、eBookの閲覧に学生が日常的に利用しているスマートフォンやiPadのような 260 ppi 以上の高解像度のもではなかったため、閲覧には解像度が十分で無かったと思われる。

続けて、座学の講義である「国際文化入門D」および「東南アジアの歴史」において、講義中にEBSCOhostの利用方法とページを指定したPDF送付の方法に関する資料を提示したのち、指定した書籍から一部の節のPDFファイルをメールで送付し、講義前に読むように指示した。講義ののちに、トラブルの有無、使用した感想の自由記述、紙の書籍とeBookのどちらが便利と思うかのアンケートを行なった。アンケート回答数は、それぞれ48件と14件、合計62件である。

その結果、8件13%の学生からやり方がわからないなどのトラブルが報告された。同時アクセス数が3と少ないが、これに対するトラブルの指摘は無かった。どちらが便利かの問いには、図2に示すように30%の学生がeBook、70%の学生が紙の書籍と回答しており、図1に示した結果とは大きく異なった。eBookに対する否定的な感想として、操作のやり方がわからない、学内ネットからのアクセスに限定されているのが不便、付箋を貼ったり書き込みができない、とするものが多かった。このようにeBookが便利でないとする結果が多かったのは、講義内でPC上の操作実習を行っていないことが原因のひとつであると考えられる。その一方、紙の書籍が便利とした学生も、半数近くがeBookについて何らかの面で肯定的な言及をしていた。

#### 4 考察

前項で示したように、eBookを学生に使わせるには、学生がそのeBookシステムの操作に慣れるための指導が必要になる。PC教室等で講義中に学生に一斉に操作させることを考えると、同時アクセス数が3程度に限られていることは大きな障害となる。その一方、書架などの物理的な空間の占有はしないが、履修して

いる人数分だけの複本を購入することは費用の面から現実的ではない。これより、eBookのライセンスを、例えば講義の日あるいは課題提出期間内のみ同時アクセス数を増加できる形態にすることが望まれる。

また、教室で使用するPC等の仕様を決定するときには、eBookの使用を考慮して、画面の解像度を印刷物に匹敵する300ppi程度にすることが望ましい。

EBSCOhostのページを指定してPDFを送付する機能を使うと、アクセス数が3であっても講義前の予習または課題の素材として指定しても、アンケート回答でアクセス数の不足が指摘されることはなかった。これは、学生が書籍にアクセスして送付操作する時間が比較的短いためと考えられる。

アンケート結果からは、スマートフォンを日常的に使用しているためか、学生はeBookそのものに対する抵抗感はあまり大きくないことが窺える。高解像度画面のPC等を用いてシステムの操作法を十分指導すれば、講義で大学図書館のeBookを活用して、その利点を享受できるものと思われる。

#### 5 おわりに

図書館向けに提供されているeBookサービスを、大学の講義で利用する試みを行った。アンケート結果から、そのサービスの操作方法を十分に指導すれば、学生はeBookそのものに対する抵抗はあまり小さくなく、環境を整えば講義中や予習、課題レポート等に活用できる可能性は大きいと考えられる。

#### 参考文献

1. インプレス総合研究所、『電子書籍ビジネス調査報告書2017』、インプレス (2017)
2. 植村八潮、野口武悟、『電子図書館・電子書籍貸出サービス 調査報告2016』、電子出版制作・流通協議会 (2016)
3. EBSCO Japan 社、<http://www.ebsco.co.jp/>、(閲覧：2017年9月14日)